

埼玉県てんかん診療拠点機関におけるてんかん診療実態調査

研究分担者：山内 秀雄 埼玉医科大学小児科

研究要旨

埼玉県てんかん診療拠点機関である埼玉医科大学病院における過去4年間の、てんかん実績を調査した。受診患者数、受診患者男女比、長時間ビデオ脳波検査実施数、手術件数はそれまで漸増傾向にあったが、2020年度はいずれも著減しておりSARS-CoV2パンデミックの影響であると考えられた。コンスタントにてんかん診療拠点機関の責務を果たす方法を検討してゆくことが肝要であると考えられた。

A. 研究目的

埼玉県てんかん診療拠点機関である埼玉医科大学病院の4年間のてんかん診療実態を調査することによって、埼玉県におけるてんかん診療の問題点について考察する。

B. 研究方法

2017年度から2020年度の埼玉医科大学病院におけるてんかん実績を受診患者数、受診患者男女比、長時間ビデオ脳波検査実施数、手術件数について後方視的に調査した。

（倫理面への配慮）

患者個人情報に十分配慮して施行した。

C. 研究結果

2017年度から2019年にかけて患者受診受診患者数は2017年度では入院108、外来1105であり、2018年度113、1118、2019年度126、11134と軽度の増加傾向であったが、2020年度は入院48、外来921と前年度の38%、81%に減少した。受診者年齢については2017年度では成人：小児比が1.74:1.00であったが、2020年度のそれは1.66:1.00であり成人の受診比率がやや減少する傾向を認めた。男女比では2017年度では1.19:1.00であったが、2020年度では1.34:1.00と男性比率がやや上昇した。入院による長時間ビデオ脳波検査は2018年度211件、2019年度246件であったが、2020年は59件に減少した。てんかん手術件数は2020年度は0件であった。

D. 考察

2020年度のてんかん診療の実績が低下した理由として、SARS-CoV2感染症拡大の影響が考えられる。このような状況下でもてんかん診療実績をコンスタントに維持する方法として、オンライン診療を積極的にとり入れるなどの工夫が必要であると考えられた。

E. 結論

SARS-CoV2感染症拡大によりてんかん実績が著減した。てんかん診療拠点機関としての責務を果たす意味でもITなどを用いるなど新しいてんかん診療形態の模索が今後の検討課題になる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表**1. 論文発表**

1. 山内秀雄、池田昭夫. てんかん診療の多様性と均てん化. 精神科 2020 ; 36(6) : 471-477
2. 菅野秀宜、原恵子、前澤聡、中野美佐、安元佐和、山内秀雄. 都市部におけるてんかん診療連携の現状と問題点、その課題と方策について. てんかん研究 2020;37(3):755-765.

2. 学会発表

1. Yamanouchi H, Kawai K, Fujii M, Ono T, Iida K, Watanabe H, Iwasa H, Hara K, Nakano M, Jin K, Terada K, Yasumoto S, Nakagawa E, Tohyama J, Ikeda A. Regional Epilepsy Center in

Japan: The Definition and Criteria Adopted by Japan Epilepsy Society. Annual Meeting of American Epilepsy Society (AES2019), Baltimore, USA 2019. Dec 8.

2. 山内秀雄。てんかん専門医療施設の定義・あり方とその施設基準 委員会企画セッション
すそ野の広いてんかん診療とその連携医療にむけて 第53回日本てんかん学会学術集会
神戸 2019年10月31日～11月2日
3. 山内秀雄。わが国におけるてんかん専門医療施

設のあり方の検討. 第13回日本てんかん学会
中国・四国地方会 2019年3月16日 下関

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし